

ランを示し、短時間勤務など個々のライフスタイルに合った働き方を可能にし、離職率を改善している」(菅原氏)といった取り組みが紹介された。

なお、第1分科会では「トラック業界の交通安全対策の推進」をテーマとし、プロデキューブの高柳勝二社長がコディネーターを務め、ジャスト・カーゴの清野敏彦社長、高井戸運送の飯田勇一社長、コフジ物流の堂坂佳延社長がパネリストを務めた。

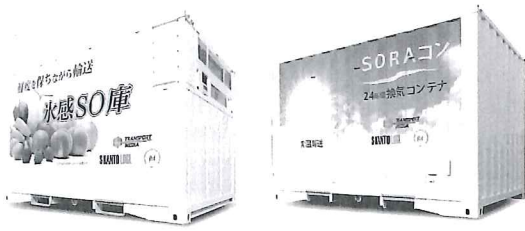
分科会終了後、澄川酒造場の澄川宣史社長が「東洋美人の酒造り」をテーマに記念講演。全体会議再開後、大会決議を鳥取県トラック協会青年部事業部会の浦本知彦部会長が読み上げた。来賓として国土交通省の藤井直樹自動車局長、平井伸治鳥取県知事が挨拶。次回大会開催地プロック協会の東北六県トラック協会連合会の須藤弘三会長による挨拶があった後、全員で「ガンパローコール」を行った。



参加者全員でガンパローコール

### ジェイアール貨物・南関東ロジ

#### 「氷感SO庫」と「SORAコン」の2機種、実用化に向け試験走行を開始へ



JR貨物の100%出資子会社であるジェイアール貨物・南関東ロジステイクス(佐々木淳社長)は6日、東京貨物ターミナル駅構内で「リノベーションコンテナ」2機種の試作機を関係者に公開した。

回、各メーカーの協力のもとに開発したのは「氷感SO庫(ひょうかんそうこ)」と「SORAコン(そらこん)」の2機種(写真)。

#### 「リノベーションコンテナ」を公開

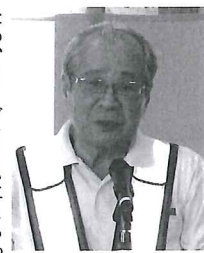
「氷感SO庫」は冷却装置に氷感システムを採用することで、食材などを凍らせることなく長期にわたって鮮度を維持できる。これまでの保冷コンテナとは異なり、食材を変質させずに長期保管できるだけでなく、コメや肉などを熟成させる効果もあり、出荷された食材や農産品をよりおいしい状態で届けことが可能。また、保管時は外部電源により充電・可動し、輸送時は蓄電池により定温管理するため、ひとつのコンテナで保管と輸送の両方を実現する。

「SORAコン」は太陽光を活用した24時間換気を実現したコンテナ。特殊塗装を施した汎用コンテナに太陽光ソーラーパネルを設置し、コンテナ内のファンを作動させることで庫内の24時間換気を実現する。特殊遮熱塗料と換気扇でコンテナ内の空気を強制的に循環させるため、庫内の湿度・温度が安定し、輸送時・保管時も常温で積載物の品質を保つことが可能となる。

ジェイアール貨物・南関東ロジでは今後、同コンテナを貨車に積載する走行実験やフォークリフトでの積み降ろし、トラックへの積載などを通じて安全性や耐久性を検証していくことで

早期の実用化を進めていく。また、同コンテナの営業・販売を全国通運が担当するなど、JR貨物グループ全体で商用化を後押ししていく。

#### ●JR貨物グループ挙げて販売などを支援



佐々木社長  
東ロジの佐々木社長は「特に「氷感SO庫」は一定期間、鮮度を維持できる

ため、リードタイムにとられない物流を実現することが可能。まだ試作の段階だが、当社の私有コンテナとして走行実験や積み降ろしの実験を通じて安全性を担保していく。早期の実用化することで生産から消費までの流通革命を図っていきたい」と語った。

また、JR貨物の田村修二社長は「JR貨物としても定温輸送分野を強化したいと考えており、この新技術を活用したコンテナが実用化できれば、強力な武器になると考えている。まず

### 豊田自動織機/産総研

#### 「アドバンス・ロジステイクス連携研究所」設立 自律化による省人化など先進的な技術研究で物流現場の課題解決へ

豊田自動織機(本社・愛知県刈谷市、大西朗社長)と国立研究開発法人産業技術総合研究所(産総研、中鉢良治理事長)は1日、産総研情報・人間工学領域内に「豊田自動織機/産総研アドバンス・ロジステイクス連携研究所」を設立した。加速的・集中的研究開発実現のため2016年4月に制定された産総研連携研究室制度を活用したもので、産業車両・総合物流システムメーカーとして企業名を冠する初の研究室となる。

少子高齢化に伴う労働人口減少、eコマース拡大による多頻度・小口配送、効率・迅速性への対応など物流を取り巻くニーズが激変する中、IoTやAI(人工知能)などの技術による省人化、多量なデータを高度に活用した効率的なオペレーション実現など、新たなソリューションによって幅広い改善ニーズに応えることが求められている。



杉野社長  
田村社長  
は安定的な性能を確保していくことが大事だが、並行してマーケティング調査など商業ベースに乗せていくための活動を行うっていく」と、サポートしていく考えを述べた。

で提携する全国通運の杉野彰社長は「全国通運としても、温度管理物流を新たな事業として育てていきたいと考えている。「氷感SO庫」は温度管理機能に加え鮮度維持も可能であり、リードタイムが重視される輸送の常識を大きく変えていく可能性がある。例えば、市場価格を見ながら出荷日数を調整したり、配送効率化のために時間調整をすることなども可能になってく」と語った。

